

‘湘南ポモロン’の露地作型では 側枝を伸長させることで 品質・収量が向上します

本県で育成したトマト‘湘南ポモロン・レッド’（SPL25R）及び‘湘南ポモロン・ゴールド’（SPLG3）では、夏季に果実の着色不良が発生することがあります。そこで果実の日よけ方法として摘心を行わない（無摘心）と各花房間直下の側枝1本を伸長させた（側枝伸長）ところ、着色不良の発生が低下し、果実品質の向上及び収量が増加しました。

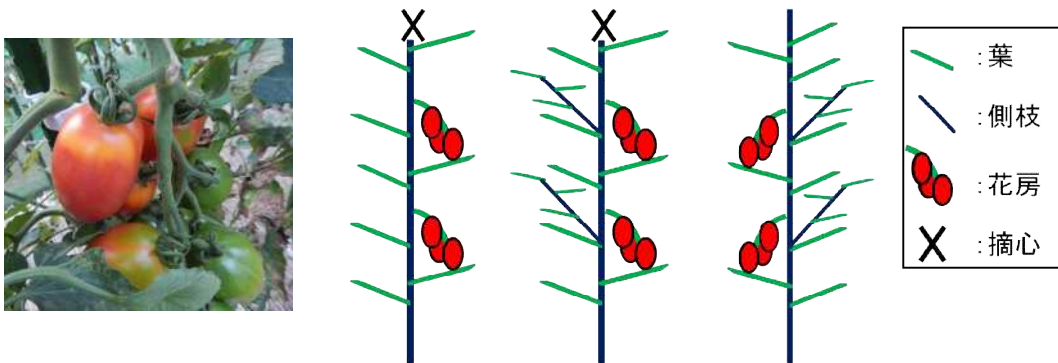
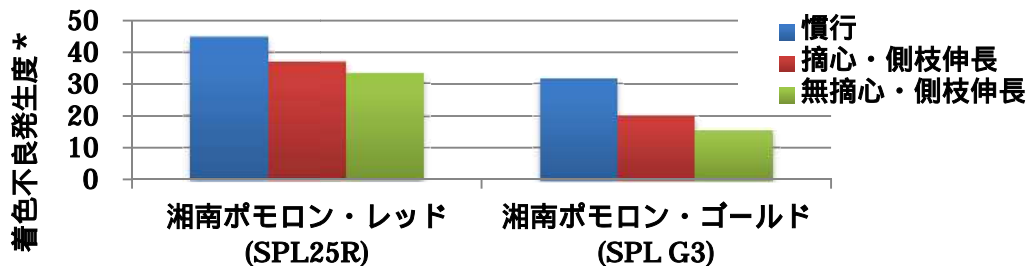


図1：‘湘南ポモロン・レッド’（SPL25R）の着色不良 図2 試験区（左：慣行区、中央：摘心・側枝伸長、右：無摘心・側枝伸長区）*側枝は着果させない



*：着色不良発生度：100 × Σ（程度別発生果数 × 指数） / （3 × 調査果数）

指数 0:発生無し

1:果実の1部分にのみ着色不良（上果に含めた）

2:果実の1/6～1/3程度の着色不良

3:果実の1/3以上の着色不良

図3：栽培方法と果実の着色不良発生度



図4：栽培方法と上果収量